

令和5年度  
—千葉県—  
君津市内遺跡発掘調査報告書

天神台遺跡Ⅷ  
富吉遺跡Ⅶ

令和6年3月  
君津市教育委員会

令和5年度

—千葉県—

# 君津市内遺跡発掘調査報告書

てんじんだい  
天神台遺跡Ⅷ

とみよし  
富吉遺跡Ⅶ

令和6年3月

君津市教育委員会

# 序 文

広大な面積を有する君津市には、小糸川・小櫃川という二大河川を中心に豊かな自然が広がり、そこには数多くの遺跡が残されています。先人たちが残してくれた生活の痕跡は現代の私たちに様々な歴史を物語ってくれます。これらの貴重な文化財を後世に残していくことが私たちに課せられた責務であると思います。

しかしながら、開発という利便性に伴う経済発展を進めるなかで、遺跡が破壊されてしまう側面があることも事実であります。その場合は、発掘調査を実施して「記録保存」という手段を講じていることが現状であります。

本報告書は、国庫及び県費補助により令和5年度に実施した君津市内遺跡発掘調査の成果をまとめた報告書です。対象となった遺跡は、古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落跡である天神台遺跡と富古遺跡の2遺跡であります。

本書が学術資料、教育資料として活用されるとともに、市民をはじめ多くの皆様の目にとまり、遺跡というものがごく身近にも存在しているのだということを確認していただく契機となり、埋蔵文化財の保護を推進することができましたならば幸いです。

結びに、ご指導・ご助言いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課、発掘調査・整理作業に従事した調査補助員の方々、ご協力をいただいた地域の方々、関係者の皆様に対しまして、心から感謝の意を表します。

令和6年3月

君津市教育委員会  
教育長 粕谷 哲也

# 例 言

- 1 本書は、令和5年度調査実施の千葉県君津市上宇天神台694番3に所在する天神台遺跡Ⅷ、千葉県君津市貞元字猪ノ尻201番に所在する富吉遺跡Ⅶの成果を収録した、令和5年度君津市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導のもと、君津市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査・整理作業期間は以下のとおりである。

天神台遺跡Ⅷ	(確認調査)	令和5年4月12日～同年4月13日
	(本調査)	令和5年4月17日～同年5月2日
富吉遺跡Ⅶ	(確認調査)	令和5年5月8日～同年5月26日
整理作業		令和5年12月1日～令和6年2月29日
- 4 発掘調査は、天神台遺跡Ⅷを曾我真実子、富吉遺跡Ⅶを矢野淳一が担当した。整理作業・原稿執筆・編集は、曾我が担当した。
- 5 発掘調査で使用した遺跡コードは、天神台遺跡：KT 036、富吉遺跡：KT 051である。なお、遺物注記の際には、コードの次に調査地点を付した（例：KT 036 Ⅷ）。
- 6 遺構・遺物の縮尺は各実測図に明記した。方位は座標北であり、測量値は世界測地系による。
- 7 今回の調査に伴う遺物・図面・写真等の記録類は、君津市教育委員会が保管する。
- 8 調査組織は下記のとおりである。

《君津市教育委員会》  
教育長：粕谷哲也  
教育部長：丸 博幸  
生涯学習文化課長：塚越直美 文化振興担当主幹：富眞紀子 文化振興係長：中花彩乃  
主査(再)：矢野淳一 文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子
- 9 発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指簿・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

# 凡 例

- 1 本書で使用した地形図は、第1・8図 地形図「鹿野山」(1:25,000)国土地理院発行、第2図 君津市地形図「F-6」(1:2,500)君津市発行、第9図 君津市地形図「D-5」(1:2,500)君津市発行である。
- 2 本文中に記載した遺構の重複関係は(旧)→(新)の順に記載した。

# 目次

序文・例言・凡例

第1章 天神台遺跡Ⅶ	1
第2章 富吉遺跡Ⅶ	13

## 挿図目次

第1図 天神台遺跡周辺の遺跡	2	第7図 出土遺物実測図	10
第2図 天神台遺跡調査区位置図	3	第8図 富吉遺跡周辺の遺跡	14
第3図 確認トレンチ配置図及び基本土層図	5	第9図 富吉遺跡調査区位置図	16
第4図 本調査範囲1遺構配置図	7	第10図 基本土層図	18
第5図 SD-001・002、SK-007遺構実測図	8	第11図 確認トレンチ配置図及び断面図	19
第6図 土坑・ピット実測図	9	第12図 出土遺物実測図	20

## 表目次

表1 天神台遺跡Ⅶピット観察表(1)	11
天神台遺跡Ⅶピット観察表(2)	12

## 図版目次

図版1・2 天神台遺跡Ⅶ
図版3 富吉遺跡Ⅶ

# 第1章 天神台遺跡Ⅷ

## 1 調査にいたる経緯

令和5年2月3日付けで、個人申請者より文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」の提出があった。開発目的は個人住宅建設で、開発予定面積は496㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内（天神台遺跡）」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を事業者の説明した。協議の結果、計画どおり、事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、令和5年4月12日から同年4月13日まで、君津市教育委員会で行った。

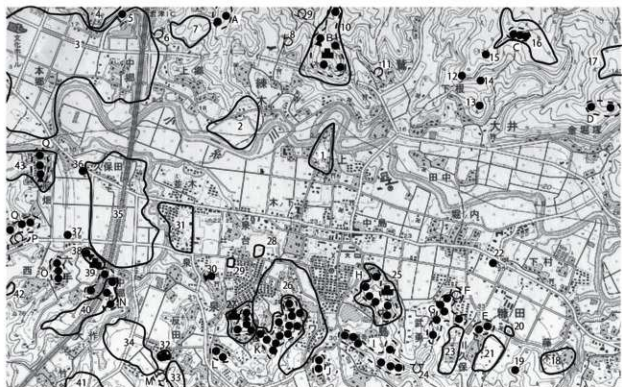
確認調査の結果、古墳時代の溝跡や土坑などが検出されたため、事業者と君津市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない114.81㎡について、本調査を実施することとした。本調査は、令和5年4月17日から同年5月2日まで行った。なお、調査はすべて君津市教育委員会で行った。

## 2 地理的・歴史的環境（第1図）

天神台遺跡は、「銀蛇の流れ」と詠われた小糸川が、激しい蛇行を繰り返す中流域左岸の河岸段丘上の標高約20.0mの地点に位置する。遺跡の所在する左岸は、南方の丘陵部に達するまでゆるやかな河岸段丘と低地がよく開けているが、対する右岸は、北側の丘陵が最も小糸川に接近している地点で、その間の河岸段丘は対岸に対してやや狭窄している。当遺跡は、小糸川中流域の左岸において最も川に近い位置に所在している。

発掘調査がされた周辺の遺跡をみると、低地では35. 姥田遺跡、31. 泉遺跡がある。姥田遺跡<sup>(1)</sup>では、古墳時代後期の円形周溝遺構、溝跡、水田面、中世の溝跡、土坑が検出されており、溝跡から多量の土器が出土している。泉遺跡<sup>(2)</sup>では、古墳時代後期の集落跡（竪穴住居跡・溝跡・方形周溝遺構・土坑・ピット）と中世の農民層の集落跡（掘立柱建物跡・井戸跡・土坑・ピット）が検出されている。そのほか、全国的にも出土例の少ない木製高坏が出土している。

左岸の丘陵上では、G. 万崎古墳群がある。万崎古墳群<sup>(3)</sup>は、7基の円墳で構成され、これまでに6号墳と7号墳が調査されている。6号墳は、6世紀末葉ごろの築造で、墳径約18.5mである。直刀2振、刀子2点、耳環2対（金環2、銀環2）、鉄鏃11点などが出土している。7号墳は、6号墳よりやや後出の築造で、直刀1振、刀子1点、鉄鏃13点が出土している。両墳とも後世の畑や道によって削平を受けており、旧状が失われていた。その他、小糸川中流域には、右岸の丘陵上にA. 大山越古墳群、左岸の丘陵上にもK. 竹際古墳群、H. 上武勇谷古墳群など、数多くの古墳群が点在しているものの、詳細な調査が実施されていないため、古墳群の実像は明らかではない。



- |            |           |             |            |            |
|------------|-----------|-------------|------------|------------|
| 1. 天神台遺跡   | 2. 寺崎遺跡   | 3. 三直中郷遺跡   | 4. 天王台遺跡   | 5. 三直台古墳   |
| 6. 奥谷横穴    | 7. 柏木遺跡   | 8. 池ノ谷横穴    | 9. 台横穴     | 10. 藤木台遺跡  |
| 11. 廻ノ内やぐら | 12. 賀屋庚申塚 | 13. 三ツ塚古墳   | 14. 大井山田古墳 | 15. 賀堂古墳   |
| 16. 怒田ノ作遺跡 | 17. 台山遺跡  | 18. 藤木遺跡    | 19. 台谷塚    | 20. 糠田中田遺跡 |
| 21. 糠田遺跡   | 22. 首塚古墳  | 23. 西郷遺跡    | 24. 武勇谷横穴  | 25. 周東城跡   |
| 26. 竹際遺跡   | 27. 星谷城跡  | 28. 泉館治屋前遺跡 | 29. 泉南田遺跡  | 30. 白山裏古墳  |
| 31. 泉遺跡    | 32. 荷倉跡   | 33. 君ヶ作遺跡   | 34. 馬登泉遺跡  | 35. 姥田遺跡   |
| 36. 神裏塚古墳  | 37. 熊野前古墳 | 38. 狐山古墳    | 39. 狐山岩跡   | 40. 鹿島台遺跡  |
| 41. 羽黒下遺跡  | 42. 西谷遺跡  | 43. 川代台遺跡   | A. 大山越古墳群  | B. 奥中谷古墳群  |
| C. 怒田ノ作塚群  | D. 台山古墳群  | E. 宇治塚群     | F. 糠田横穴群   | G. 万崎古墳群   |
| H. 上武勇谷古墳群 | I. 武勇谷古墳群 | J. 長照寺古墳群   | K. 竹際古墳群   | L. 熊野裏古墳群  |
| M. 君ヶ作横穴墓群 | N. 鹿島台古墳群 | O. 西山古墳群    | P. 六手中谷横穴群 | ○. 八幡神社古墳群 |

第1図 天神台遺跡周辺の遺跡 (1:25,000)

註 (1) 『姥田遺跡発掘調査報告書』1998 財団法人君津都市文化財センター

『千葉県文化財センター年報 No. 24』1999 財団法人千葉県文化財センター

『平成13年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2002 君津市教育委員会

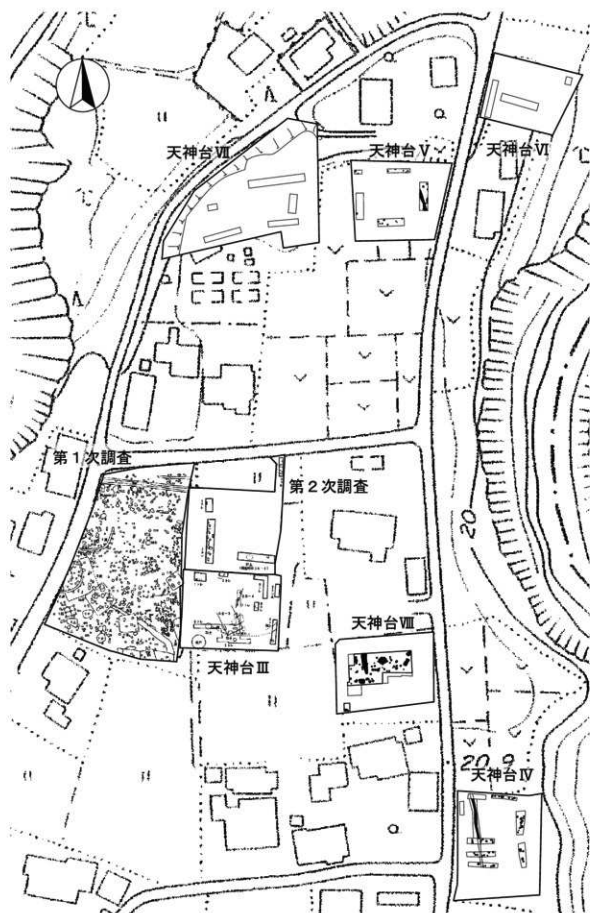
『平成18年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2007 君津市教育委員会

『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書10』2007 財団法人千葉県文化財センター

(2) 『泉遺跡発掘調査報告書Ⅰ』1996 財団法人君津都市文化財センター

『泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1996 財団法人君津都市文化財センター

『平成12年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2001 君津市教育委員会



第2図 天神台遺跡調査区位置図 (1:1,000)



#### 参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)一君津・夷隅・安房地区(改訂版)一』2000 千葉県教育委員会

### 3 遺跡の概要(第2図)

天神台遺跡は、古墳時代から奈良・平安時代の集落跡である。当遺跡内では、これまでに宅地開発や個人住宅建設に伴い、複数回の調査を実施している。平成2・9・10年度に調査した天神台遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区<sup>(1)</sup>は隣接し、遺跡のほぼ中央に位置する。竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡4棟、土坑27基、溝跡9条、ピット790基が検出されている。平成20年度調査の天神台遺跡Ⅳ<sup>(2)</sup>では、遺跡の東端を調査し、溝跡1条、土坑2基、ピット52基を検出した。いずれも6世紀後半から8世紀前葉のものを主体としている。平成28年度調査の天神台遺跡Ⅴ<sup>(3)</sup>では、溝跡1条、土坑1基、ピット22基を検出した。これまでの調査では、確認されていなかった弥生土器が出土しており、弥生時代の遺構の存在を示唆する結果となった。平成30年度調査の天神台遺跡Ⅵ<sup>(4)</sup>・令和4年度調査の天神台遺跡Ⅶ<sup>(5)</sup>では、遺構が検出されず、小糸川に向かって傾斜する旧地形を確認した。

註(1) 『天神台遺跡発掘調査報告書』1991 財団法人君津郡市文化財センター

『平成2年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』1991 君津市教育委員会

『平成9年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』1998 君津市教育委員会

『平成10年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』1999 君津市教育委員会

(2) 『平成20年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2009 君津市教育委員会

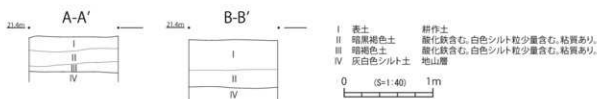
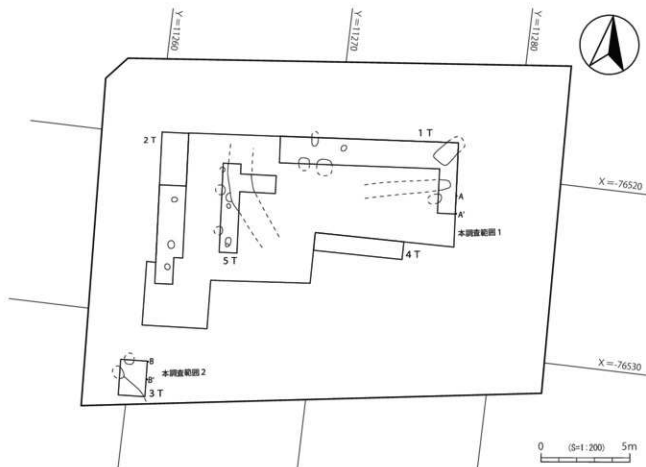
(3) 『平成28年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2017 君津市教育委員会

(4) 『平成30年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2019 君津市教育委員会

(5) 『令和4年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2023 君津市教育委員会

### 4 調査の方法(第3図)

確認調査は、調査対象地内における遺構の分布と種別を把握するために対象地496㎡にトレンチを5本設定した。調査区域の現状は畑地である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図などの実測作業を行った。写真撮影は小型(35mm)カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。遺構確認面までの表土は重機により除去した後、鋤簾を用いて人力により遺構検出作業を行った。基本層序は1T東壁(A-A')と3T東壁(B-B')で確認し、現地表面から確認面までは、0.4~0.5mである。地山層は灰白色シルト土(IV層)である。遺構検



第3図 確認トレンチ配置図及び基本土層図

出作業時に出土した遺物は、トレンチ一括で取り上げた。調査の結果、古墳時代の溝跡・土坑・ビッドが検出されたため、事業者と君津市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない114.81㎡の本調査を行うこととした。

本調査は、遺構確認面までの表土は重機により除去し、本調査範囲の遺構検出作業、覆土掘り下げは人力で行った。出土した遺物は、遺構ごとに取り上げた。写真撮影は小型(35mm)カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。調査終了後は重機により排土を埋め戻して現状復帰し、現地作業を終了した。

## 5 検出した遺構と遺物

### 確認調査（第3図）

- 1 T 遺構確認面までの深さは、0.5 mである。古墳時代溝跡1条・土坑1基・ピット5基を検出した。
- 2 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。古墳時代ピット3基を検出した。
- 3 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。古墳時代土坑1基・ピット2基を検出した。
- 4 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。遺構は検出されなかった。
- 5 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。古墳時代溝跡1条・ピット7基を検出した。

### 本調査（第4～7図）

#### 溝跡

##### SD-001（第4・5図）

重複関係 SD-001→P-22・23

規模・形態・構造 幅0.5～1.45 m、深さ0.17～0.25 m、検出部分の長さは5.4 m。南-北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

##### SD-002（第4・5図）

重複関係 SK-007→SD-002→P-13

規模・形態・構造 幅0.4～0.45 m、深さ0.13～0.24 m、長さ2 m。ほぼ南-北方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし

#### 土坑

##### SK-001（第4図）

重複関係 SK-005→SK-001

規模・形態・構造 検出部分の長軸0.78 m、短軸0.93 m、深さ0.22 m。平面形は長方形が想定できる。断面形はU字状である。底面に円形の掘り込みがある。

遺物 土師器が出土した。坏片などが含まれるが小片のため図示し得るものはない。

##### SK-002（第4・6・7図）

重複関係 SK-006→SK-011→SK-002

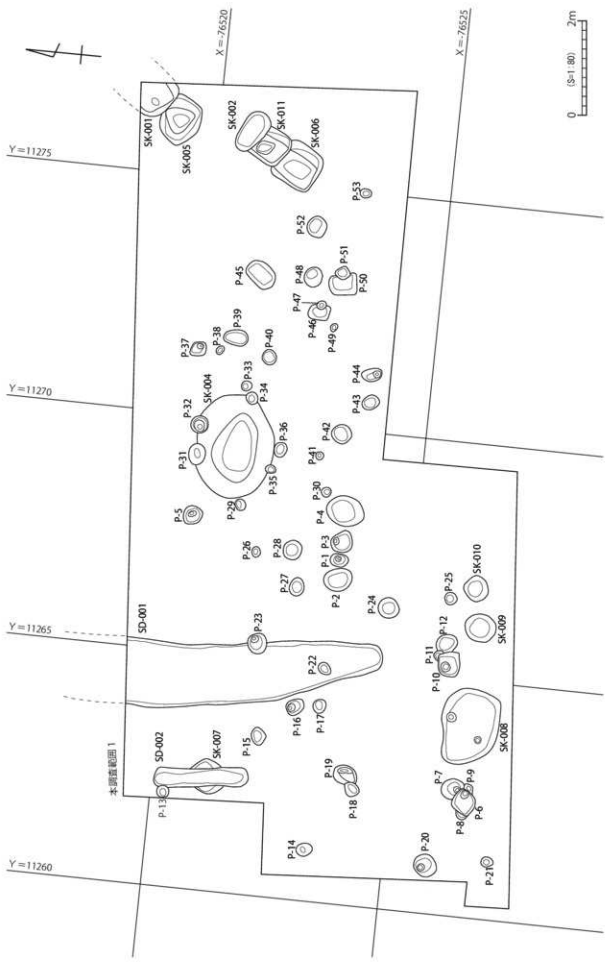
規模・形態・構造 長軸9.4 m、短軸5.1 m、深さ0.2 m。平面形は不整な楕円形である。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。1は土師器坏の口縁部へ体部片である。ロクロ成形。調整は内面に斜文状ミガキ。焼成はやや良好。色調は明黄褐色。胎土は細かい砂粒、赤色粒を含む。

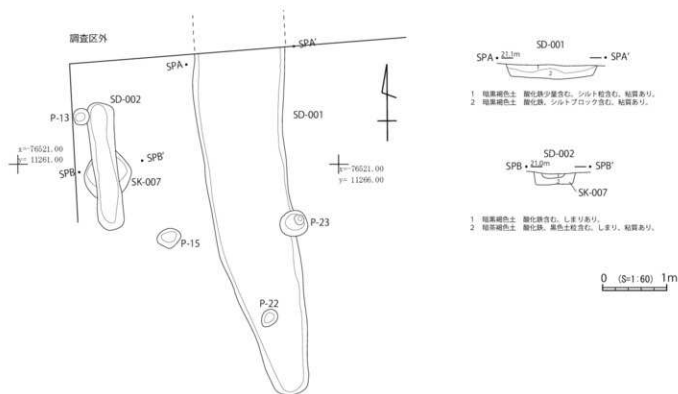
##### SK-003（第6図）

重複関係 なし

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.18 m、検出部分の短軸0.55 m、深さ0.23 m。平面形は不整な楕



第4図 本調査範囲1 遺構配置図



第5図 SD-001・002、SK-007 遺構実測図

円形が想定できる。断面形は逆台形である。

**遺物** 土師器が出土した。坏片などが含まれるが小片のため図示し得るものはない。

#### SK-004 (第4・6・7図)

**重複関係** SK-004→P-31・32・34・35

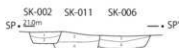
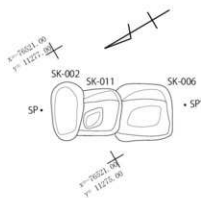
**規模・形態・構造** 長軸 2.21 m、短軸 1.65 m、深さ 0.38～0.4 m。平面形は楕円形である。断面形はU字状である。確認面より 0.15 m 掘り下げたところで湧水した。また、SK-004 の周囲では、左右上下対称の位置にビット (P-29・31～36) を複数基検出した。

**遺物** 土師器、須恵器が出土した。**2** は土師器坏の口縁部～体部 1/5 の遺存である。復元口径 12.3 cm、遺存高 3.95 cm。摩耗激しく調整不明。焼成はやや不良。色調は内面黄橙色、外面オリーブ灰色。胎土は砂粒、赤色粒を含む。**3** は土師器甕か壺の底部 1/5 の遺存である。復元底径 9.4 cm、遺存高 3.1 cm。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調はにぶい黄橙色。胎土は細かい砂粒、赤色粒を含む。**4** は土師器高坏の脚部 1/5 の遺存である。復元底径 12.0 cm、遺存高 3.5 cm。摩耗激しく調整不明。焼成はやや不良。色調は内面灰黄褐色、外面橙色。胎土は細かい砂粒、白色粒を含む。**5** は須恵器甕の胴部片である。ロクロ成形。調整は内面ナデ、外面平行タタキ。焼成は良好。色調は灰白色。胎土は細かい砂粒、赤色粒、白色粒を含む。

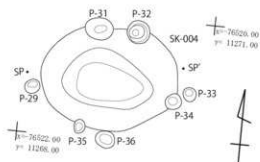
#### SK-005 (第4図)

**重複関係** SK-005→SK-001

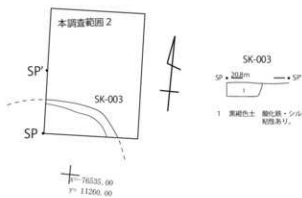
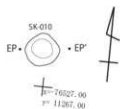
**規模・形態・構造** 長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.27 m。平面形は不整な長方形である。断面形は逆台形状で底面中央に円形の掘り込みをもつ。



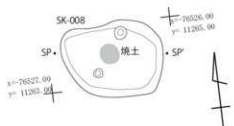
- 1 黒褐色土 シルト粒・ブロック含む。しまり、粘性あり。
- 2 暗黒褐色土 シルトブロック多量含む。しまり、粘性あり。
- 3 黒褐色土 茶褐色粒・ブロック含む。しまり、粘性あり。
- 4 黒褐色土 茶褐色ブロック多量含む。しまり、粘性あり。
- 5 黒褐色土 茶褐色粒・ブロック少量含む。しまり、粘性あり。
- 6 暗黒褐色土 茶褐色ブロック含む。しまり、粘性あり。



- 1 黒褐色土 黒褐色土粒少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 黒褐色土粒多量含む。しまりあり。
- 3 暗黒褐色土 シルト粒・ブロック多量含む。しまり、粘性あり。



- 1 黒褐色土 酸化鉄・シルト粒含む。粘性あり。



- 1 焼土
- 2 暗赤褐色土 焼土を微量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 黄色ブロック多量含む。しまりあり。
- 4 暗赤褐色土 黒褐色粒含む。しまりあり。



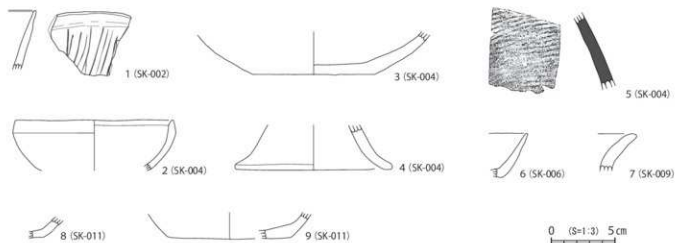
- 1 黒褐色土 シルト粒多量含む。しまり、粘性あり。



- 1 暗黒褐色土 酸化鉄・シルト粒含む。粘性あり。
- 2 褐色土 酸化鉄・黄色ブロック含む。粘性あり。
- 3 暗黒褐色土 シルト粒含む。粘性あり。

0 (S=1:60) 1m

第6図 土坑・ピット実測図



第7図 出土遺物実測図

遺物 土師器が出土した。坏片などが含まれるが小片のため図示し得るものはない。

SK-006 (第4・6・7図)

重複関係 SK-006 → SK-011 → SK-002

規模・形態・構造 1辺0.9 m、深さ0.23 m。平面形は不整な方形である。断面形は逆台形状である。南東側にテラスをもつ。

遺物 土師器が出土した。6は土師器坏の口縁部～底部片である。遺存高3.35 cm。摩耗激しく調整不明。内面にスガが付着しているため灯明皿として使用していた可能性がある。焼成は不良。色調は橙色。胎土は砂粒、赤色粒を含む。

SK-007 (第4・5図)

重複関係 SK-007 → SD-002

規模・形態・構造 一辺0.7～0.75 m、深さ0.18～0.2 m。平面形は方形である。断面形は逆台形状である。

遺物 なし

SK-008 (第4・6図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.67 m、短軸0.86～1.25 m、深さ0.18 m。平面形は不整な楕円形である。断面形は逆台形状である。中央上面に焼土を検出したが、範囲も狭く、硬化面等は検出されなかった。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-009 (第4・6・7図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径0.59～0.66 m、深さ0.4 m。平面形は円形である。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。7は土師器甕か壺の口縁部片である。調整は内外面ともナデ。焼成は良好。色調は暗灰黄色。胎土は細かい白色粒、小礫を少量含む。

SK-010 (第4・6図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径0.53 m、深さ0.23 m。平面形は円形である。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

#### SK-011 (第4・6・7図)

重複関係 SK-006 → SK-011 → SK-002

規模・形態・構造 想定できる長軸0.8 m、短軸0.73 m、深さ0.32 m。平面形は長方形である。SK-006同様、南東側にテラスをもち、底面には不整な方形の掘込がある。断面形は逆台形である。

遺物 土師器が出土した。8は土師器環の底部辺である。遺存高1.4 cm。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調は橙色。胎土は砂粒、小礫を含む。9は土師器環の底部1/5の遺存である。復元直径9.6 cm、遺存高1.9 cm。摩耗激しく調整不明。焼成はやや不良。色調は内面橙色、外面オリーブ黒色。胎土は細かい砂粒、白色粒、赤色粒を含む。

#### ビット

一覧表にまとめた。柱痕跡が残るビットが複数検出されたが、いずれも組み合わせるものはなかった。出土遺物についても表中に記載したが、いずれも小片で図示し得るものはなかった。

遺物	重複関係	規模	平面形	柱痕跡の有無	出土遺物	備考
P-1		長軸0.39 m、短軸0.27 m、深さ0.23 m	楕円形	右	土師器	第4区
P-2		長軸0.43 m、短軸0.48 m、深さ0.13 m	楕円形	無		第4区
P-3		直径0.4～0.42 m、深さ0.2 m	不整な円形	右		第4区
P-4		直径0.72～0.74 m、深さ0.2 m	不整な円形	無		第4区
P-5		直径0.39～0.42 m、深さ0.23 m	円形	右		第4・6区
P-6	P-7・8 → P-9 → P-6	一辺0.46～0.49 m、深さ0.17 m	方形	右		第4区
P-7	P-7・8 → P-9 → P-6	掘込部分の直径0.46 m、深さ0.23 m	円形	右		第4区
P-8	P-7・8 → P-9 → P-6	掘込部分の直径0.25 m、深さ0.1 m	円形	無		第4区
P-9	P-7・8 → P-9 → P-6	掘込部分の直径0.2 m、深さ0.1 m	不整な円形	無		第4区
P-10	P-12 → P-11 → P-10	一辺0.45～0.5 m、深さ0.24 m	方形	右		第4区
P-11	P-12 → P-11 → P-10	掘込部分の直径0.22 m、深さ0.13 m	円形	無		第4区
P-12	P-12 → P-11 → P-10	長軸0.48 m、短軸0.38 m、深さ0.1 m	楕円形	無		第4区
P-13	SK-002 → P-13	直径0.25 m、深さ0.18 m	不整な円形	無		第4・5区
P-14		長軸0.38 m、短軸0.27 m、深さ0.23 m	楕円形	無		第4区
P-15		一辺0.23～0.23 m、深さ0.1 m	不整な方形	無		第4・5区
P-16		長軸0.4 m、短軸0.31 m、深さ0.25 m	楕円形	右		第4区
P-17		直径0.27～0.29 m、深さ0.23 m	円形	無		第4区
P-18	P-19 → P-18	長軸0.3 m、短軸0.27 m、深さ0.14 m	不整な円形	無		第4区
P-19	P-19 → P-18	掘込部分の直径0.34 m、短軸0.44 m、深さ0.38 m	不整な楕円形	右		第4区
P-20		直径0.48～0.48 m、深さ0.23 m	円形	右		第4区
P-21		直径0.24～0.22 m、深さ0.19 m	不整な円形	無		第4区
P-22	SK-001 → P-22	長軸0.3 m、短軸0.24 m、深さ0.24 m	不整な楕円形	無		第4・5区
P-23	SK-001 → P-23	直径0.4～0.42 m、深さ0.17 m	円形	右		第4・5区
P-24		直径0.42～0.43 m、深さ0.15 m	円形	無		第4区
P-25		直径0.38 m、深さ0.19 m	円形	無		第4区
P-26		長軸0.2 m、短軸0.18 m、深さ0.16 m	楕円形	無		第4区
P-27		長軸0.3 m、短軸0.31 m、深さ0.16 m	楕円形	無		第4区
P-28		直径0.4～0.42 m、深さ0.18 m	円形	無		第4区
P-29		長軸0.24 m、短軸0.22 m、深さ0.39 m	楕円形	無		第4・6区
P-30		直径0.2 m、深さ0.19 m	円形	無		第4区
P-31	SK-004 → P-31・32・34・35	長軸0.46 m、短軸0.4 m、深さ0.14 m	楕円形	無		第4・6区
P-32	SK-004 → P-31・32・34・35	直径0.36～0.37 m、深さ0.15 m	円形	右		第4・6区
P-33		直径0.33～0.24 m、深さ0.25 m	円形	無		第4・6区
P-34	SK-004 → P-31・32・34・35	直径0.28～0.25 m、深さ0.21 m	円形	無		第4・6区
P-35	SK-004 → P-31・32・34・35	長軸0.25 m、短軸0.18 m、深さ0.1 m	楕円形	無		第4・6区

表1 天神台遺跡Ⅳビット観察表(1)



P-06		長軸0.23 m、短軸0.26 m、深さ0.21 m	横内形	無	第4層
P-07		一辺0.3 m、深さ0.16 m	不整形方形	有	第4層
P-08		長軸0.23 m、短軸0.15 m、深さ0.1 m	横内形	無	第4層
P-09		長軸0.23 m、短軸0.25 m、深さ0.1 m	横内形	無	第4層
P-40		直径0.2→0.22 m、深さ0.1 m	円形	無	第4層
P-41		直径0.17→0.18 m、深さ0.11 m	円形	無	第4層
P-42		直径0.20→0.4 m、深さ0.15 m	円形	無	第4層
P-43		長軸0.26 m、短軸0.29 m、深さ0.16 m	横内形	無	第4層
P-44		長軸0.43 m、短軸0.27 m、深さ0.12 m	横内形	有	第4層
P-45		長軸0.68 m、短軸0.48 m、深さ0.18 m	長方形	無	第4層
P-46	P-46→P-47	長軸0.43 m、短軸0.22 m、深さ0.18 m	長方形	無	第4層
P-47	P-46→P-47	直径0.18→0.2 m、深さ0.17 m	円形	無	第4層
P-48		直径0.4→0.42 m、深さ0.23	円形	無	第4層
P-49		長軸0.18 m、短軸0.12 m、深さ0.12 m	横内形	無	第4層
P-50	P-50→P-51	長軸0.29 m、短軸0.46 m、深さ0.26 m	長方形	無	第4層
P-51	P-50→P-51	一辺0.26→0.27 m、深さ0.26 m	方形	無	第4層
P-52		長軸0.45 m、短軸0.41 m、深さ0.47 m	不整形長方形	無	第4層
P-53		長軸0.29 m、短軸0.2 m、深さ0.13 m	横内形	無	第4層

表1 天神台遺跡Ⅳピット観察表(2)

## 6 まとめ

今回の調査で検出した遺構は、古墳時代後期以降の溝跡2条、土坑11基、ピット53基である。遺物は土師器・須恵器が出土したが、いずれも小片が多く、須恵器の数量は1点のみの出土である。これまでの調査から天神台遺跡から出土する土師器は、焼成が不良で、摩耗しているものが多かったが、今回の調査でも同様の土師器の小片が多数出土した。

調査範囲の西側は、確認面より10 cm下から湧水するような地点もあり、非常に水に富んだ場所であったことがいえるだろう。また、SK-004は常に水が湧くため、井戸として使用していたことが考えられる。周辺から検出されたピットもSK-004に伴い、槽のような役割をしていた可能性もあるのではないだろうか。

近年、天神台遺跡の点的な調査が増加し、遺跡の範囲が定まってきた。今回の調査は、遺跡の中心に近い地点であり、これまでの調査成果と同様の古墳時代後期以降の遺構・遺物が検出された。集落跡として知られている天神台遺跡であるが、今回の調査地点のように水が湧く場所でも土地利用をしていることが分かった。

## 第2章 富吉遺跡Ⅶ

### 1 調査にいたる経緯

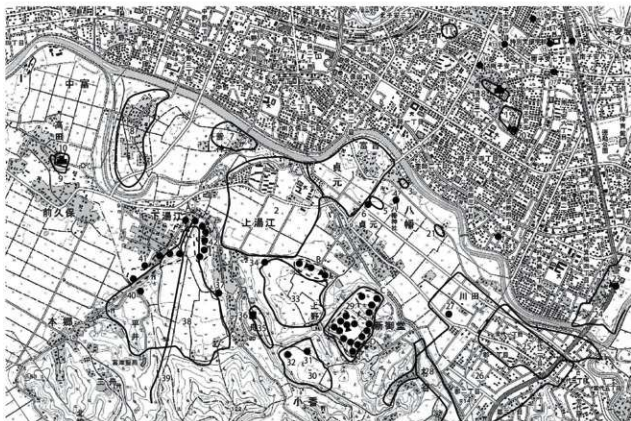
令和5年3月10日付けで、個人申請者より文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」の提出があった。開発目的は個人住宅建設で、開発予定面積は551.8㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内（富吉遺跡）」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を事業者に説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、令和5年5月8日～同年5月26日に君津市教育委員会で行った。

確認調査の結果、古墳時代の溝跡や中世の土坑などが検出されたが、保護層内での工事が可能なため、調査終了とした。なお、調査はすべて君津市教育委員会で行った。

### 2 地理的・歴史的環境（第8図）

富吉遺跡は、君津市貞元に所在し、JR内房線君津駅の南東約1.7km地点にある。小糸川下流域左岸の低位段丘に位置し、標高は約10.0m前後である。遺跡周辺の環境は、小糸川右岸がすでに市街化が進んでいるのに対して、左岸には水田が広がる農村集落的な景観が残されている。左岸の低地・丘陵上には多くの埋蔵文化財が分布している。近年、調査例も増えてきたが、遺跡の広がりや性格などはまだ不明な点が多い状況である。

発掘調査がされた周辺の遺跡をみると、同じ低地遺跡であり、以前、区画整理の計画範囲に入っていた2. 上湯江遺跡、7. 釜神遺跡、8. 中富遺跡がある。上湯江遺跡<sup>(1)</sup>では、平成6年度に確認調査が実施され、奈良・平安時代の掘立柱建物跡3棟以上を確認し、8世紀代の土器も出土したことから古代の集落の存在が裏付けられた。この他、中世の井戸跡と溝跡を検出し、出土した陶磁器の中には12世紀末から13世紀前葉の龍泉窯系の碗や初期かわらけがあり、鎌倉とつながりのある在地領主層の屋敷跡があったとも考えられている。平成23・26年度には個人住宅建設に伴う確認・本調査が実施され、古墳時代後期から奈良・平安時代の溝跡・土坑・ピットなどが検出された。湖西窯産の須恵器環が出土し、集落跡の存在を示唆している。平成26年度の調査では、古墳の周溝と考えられる溝跡が検出され、古墳が存在していることが判明した。平成29・30年度には、トマト栽培施設建設に伴い、確認・本調査を実施した。古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡が7軒検出され、古代の集落の存在が明らかとなった。令和元・2年度調査には、宅地造成に伴う確認・本調査が実施され、平安時代の木枠の井戸、墨書土器や中世の古銭を500点以上埋蔵したピットなどを検出し、長期間にわたって土地利用されていたことがわかった。上湯江は地名から周准郡の「湯坐郷」の地と推定されている。釜神遺跡<sup>(2)</sup>は、小糸川の河道跡であり、近世の溝跡と畦畔が検出された。中富遺跡<sup>(3)</sup>も小糸川の河道跡であるが、中富地区の中心一帯は周囲より若干標高が高いので、遺構が存在している可能性が十分考えられる。南東側約2.0kmに低地遺跡の25. 常代遺跡や26. 郡条里遺跡がある。常代遺跡<sup>(4)</sup>は、弥生時代から中世までの複合遺跡であり、弥生時代中期の方形周溝墓



- |           |           |              |              |            |
|-----------|-----------|--------------|--------------|------------|
| 1. 富吉遺跡   | 2. 上湯江遺跡  | 3. 八幡西遺跡     | 4. 八幡前古墳     | 5. 貞元遺跡    |
| 6. 貞元塚田古墳 | 7. 釜神遺跡   | 8. 中富遺跡      | 9. 八崎遺跡      | 10. 下湯江陣屋跡 |
| 11. 天神遺跡  | 12. 南子安古墳 | 13. 南子安子安坂古墳 | 14. 寺の前古墳    | 15. 下辺古墳   |
| 16. 下道古墳  | 17. 馬門古墳  | 18. 子安陣屋跡    | 19. 埜田遺跡     | 20. 花輪堂古墳  |
| 21. 八幡東遺跡 | 22. 左師古墳  | 23. 八幡神社古墳   | 24. 外瓦輪遺跡    | 25. 常代遺跡   |
| 26. 郡条里遺跡 | 27. 八幡権現塚 | 28. 郡西遺跡     | 29. 元秋葉台遺跡   | 30. 下荘台遺跡  |
| 31. 下荘台古墳 | 32. 中荘台古墳 | 33. 上野台遺跡    | 34. 上湯江上野台古墳 | 35. 法木作遺跡  |
| 36. 法木作古墳 | 37. 陣所古墳  | 38. 三船台遺跡    | 39. 房総往還     | 40. 下三船古墳  |
| 41. 春日神社塚 | 42. 渡間塚   |              |              |            |
| A. 三船台古墳群 | B. 上野古墳群  | C. 元秋葉台古墳群   | D. 元秋葉台横穴群   |            |

※番号に○印のあるものは、すでに消滅

第8図 富吉遺跡周辺の遺跡 (1/25,000)

群、河川跡、古墳時代中・後期の集落跡、奈良・平安時代を主とした掘立柱建物跡群などが調査され、河川跡からは多量の木製品が出土している。郡条里遺跡<sup>(5)</sup>では古代条里制と関係のある溝跡や水田跡を確認している。丘陵上には縄文時代から古墳時代の包蔵地である33. 上野台遺跡、石製模造品を伴う祭祀関連の30. 下荘台遺跡<sup>(6)</sup>があるが、報告書未刊行のため詳細は不明である。古墳については、古墳時代後期の群集墳であるC. 元秋葉台古墳群<sup>(7)</sup>や古墳時代終末期のD. 元秋葉台横穴群<sup>(8)</sup>で一部調査が行われており、遺存状態が良好な須恵器などの遺物が出土している。三舟山の麓には、近世の39. 房総往還も所在し、古代から近世までの遺跡が多く残る地域である。

註(1)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

『平成23年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2012 君津市教育委員会

『平成26年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2015 君津市教育委員会

『上湯江遺跡Ⅳ－トマト栽培施設建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－』2019 君津市教育委員会

『上湯江遺跡Ⅴ－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－』2022 君津市教育委員会

『千葉県君津郡君津町誌 後編』1973

- (2) 『富古遺跡群確認調査報告書Ⅱ』1997 君津市教育委員会

『富古遺跡群確認調査報告書Ⅲ』1998 君津市教育委員会

- (3) 『富古遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

『富古遺跡群確認調査報告書Ⅱ』1997 君津市教育委員会

- (4) 『常代遺跡群確認調査報告書』1989 君津市教育委員会

『常代遺跡群』1996 財団法人君津都市文化財センター

『常代遺跡Ⅱ』1998 財団法人君津都市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、小山野遺跡－』2004 財団法人千葉県文化財センター

- (5) 『郡条里遺跡確認調査報告書』1988 君津市教育委員会

『郡条里遺跡発掘調査報告書』1990 君津市教育委員会

『郡条里遺跡Ⅱ』1992 財団法人君津都市文化財センター

『郡条里遺跡Ⅲ』1994 財団法人君津都市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、小山野遺跡－』2004 財団法人千葉県文化財センター

- (6) 『千葉県君津郡君津町誌 後編』1973

- (7) 『元秋葉台32号墳発掘調査報告書』1977 君津市教育委員会、貞元・新御堂遺跡発掘調査会

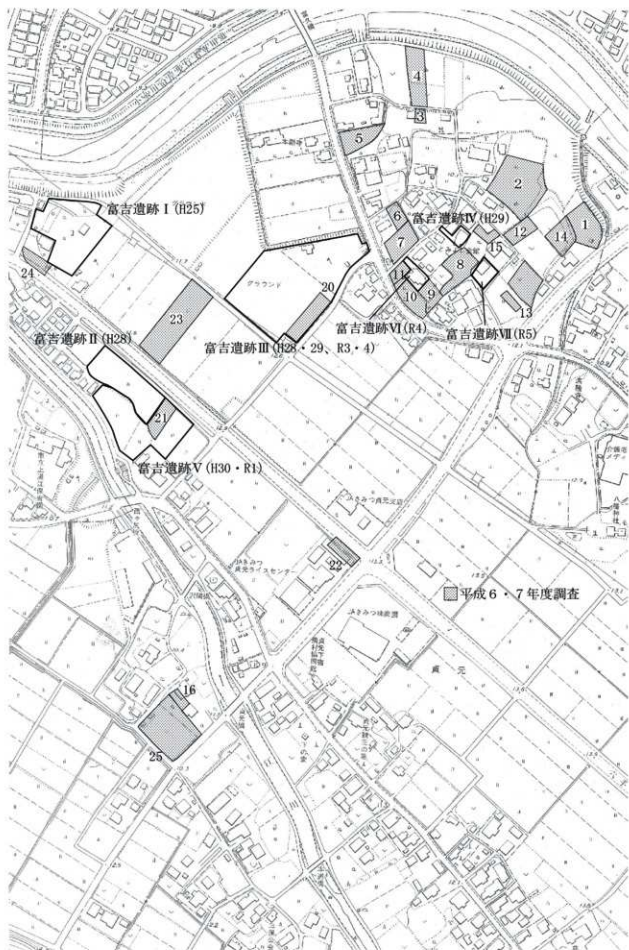
- (8) 『平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1995 君津市教育委員会

#### 参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)－君津・夷隅・安房地区(改訂版)－』2000 千葉県教育委員会

### 3 遺跡の概要(第9図)

富古遺跡は、古墳時代等遺物包蔵地として周知の遺跡であり、平成6・7年度に実施した区画整理に伴う確認調査や平成25年度以降から住宅建設・小規模な宅地造成に伴う調査により、少しずつ遺跡の範囲や性格が明らかとなってきている。君津市貞元土地区画整理組合による区画整理の計画に伴い、平成6・7年度に確認調査<sup>(1)</sup>(No.1～16、No.20～25地点)が22ヶ所実施されている。古墳時代の竪穴住居跡34軒(No.2、No.6～13、No.15地点)、奈良・平安時代の掘立柱建物跡13棟以上(No.2・7・10・13・15地点)、中世の溝跡(No.5地点)などを検出している。小糸川に面したNo.2地点では、古墳時代後期の住居跡のほか、建物配置に規則性のある奈良・平安時代の掘立柱建物跡を検出した。また、井戸と推測される土坑から9世紀代の土師器片が出土して



第9図 富吉遺跡調査区位置図 (1/4,000)

いる。No. 5地点で検出された溝跡からは14世紀代の龍泉窯系Ⅲ類の青磁蓮弁碗が出土している。No. 22地点では、古墳の周溝とみられる溝跡の一部が検出された。No. 22地点の東側、事業区域外では埴輪片が表採されている。No. 23地点では、古代末から中世とみられる東西方向の畦畔が2ヶ所検出されている。近年では、平成25年度に確認調査を実施した富吉遺跡Ⅰでは、古墳時代の溝跡11条、土坑1基が検出されている。平成28年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅱ<sup>(2)</sup>では、平成6年度調査のNo. 21地点で検出した溝跡と同一の古墳時代の溝跡やピットを検出した。平成28・29年度に確認調査、令和3・4年度に本調査を実施した富吉遺跡Ⅲ<sup>(6)</sup>では、古墳時代の遺構と32棟の掘立柱建物群等を検出し、建物跡の中には、倉庫形態を持つものが複数あり、小糸川下流域における物流の一端が明らかにされた。平成29年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅳ<sup>(3)</sup>では、古墳時代溝跡1条・土坑2基、奈良・平安時代堅穴住居跡1軒・溝跡2条を検出した。平成30年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅴ<sup>(4)</sup>では、古墳時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出し、遺跡の南端が明らかとなった。令和4年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅵ<sup>(5)</sup>では、古墳時代住居跡4軒・溝跡3条・土坑5基・ピット36基を検出し、富吉遺跡内北側の微高地に古墳時代後期の集落の存在を裏付ける結果となった。

注(1)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

(2)『富吉遺跡Ⅱ』2017 君津市教育委員会

(3)『平成30年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2019 君津市教育委員会

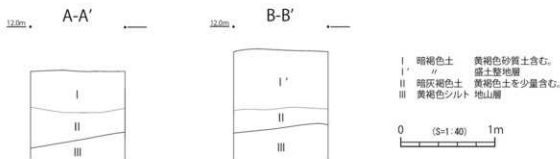
(4)『富吉遺跡Ⅴ』2019 君津市教育委員会

(5)『令和4年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2023 君津市教育委員会

(6)『富吉遺跡Ⅲ』2024 君津市教育委員会

#### 4 調査の方法(第10・11図)

確認調査は、調査対象地内における遺構の分布と種別を把握するために対象地551.8㎡にトレンチを6本設定した。調査区域の現状は宅地である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図などの実測作業を行った。写真撮影は小型(35mm)カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。遺構確認面までの表土は重機により除去した後、鋤鎌を用いて人力により遺構検出作業を行った。基本層序は2T北西壁(A-A')と5T南東壁(B-B')で確認し、現地表面から確認面までは、0.7～0.9mである。地山層は黄褐色シルト(Ⅲ層)である。遺構検出作業時に出土した遺物は、トレンチ一括で取り上げた。調査の結果、古墳時代の堅穴住居跡・溝跡・土坑・ピットが検出されたが、保護層内での工事が可能なため、調査を終了した。調査終了後は重機により排土を埋め戻して現状復帰し、現地作業を終了した。



第10図 基本土層図

## 4 検出した遺構と遺物

### 確認調査（第10～12図）

- 1 T 遺構確認面までの深さは、0.7 mである。遺構は検出されなかった。
- 2 T 遺構確認面までの深さは、0.8 mである。遺構は検出されなかった。
- 3 T 遺構確認面までの深さは、0.7 mである。遺構は検出されなかった。
- 4 T 遺構確認面までの深さは、0.9 mである。古墳時代溝跡1条、中世土坑1基・ビット1基を検出した。東側（C-C'）にサブトレンチをいれ、遺構の深さを確認したところ、SD-001の検出部分の深さ0.42 m、SK-001の検出部分の深さ0.67 mである。
- 5 T 遺構確認面までの深さは、0.7 mである。中世土坑1基・ビット4基を検出した。
- 6 T 遺構確認面までの深さは、0.7 mである。古墳時代ビット1基、中世土坑2基・ビット3基を検出した。

### 出土した遺物（第12図）

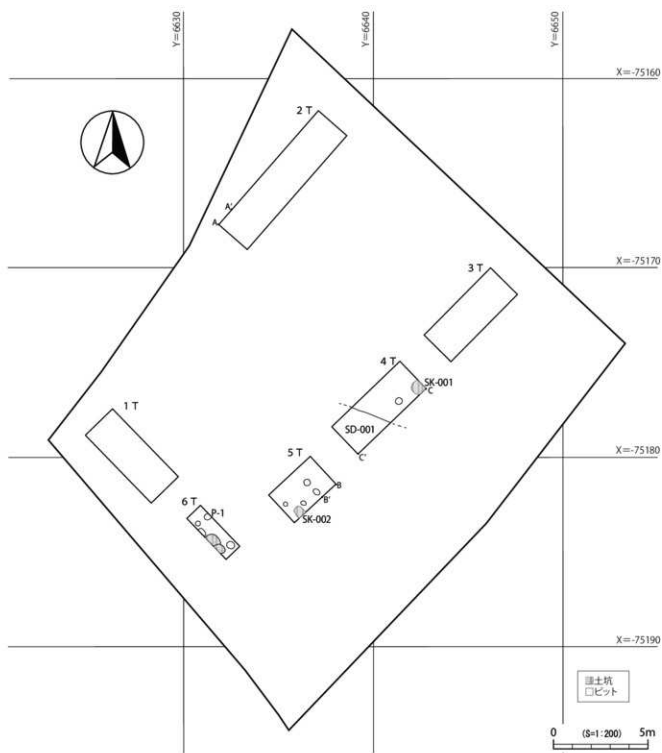
遺物の総数は非常に少なく、4 Tと6 Tでのみ出土した。また、出土した遺物の多くが土師器の小片で摩耗が激しく器種や時期等は不明である。

1はSK-001覆土中から出土した常滑甕の底部1/6の遺存である。復元底径17.2 cm、遺存高6.3 cm。ロクロ成形。内面体部に自然軸付着。焼成は良好。色調は内面灰オリーブ色、外面暗赤灰色。胎土は細かい砂粒、白色粒を含む。2はP-1から出土した須恵器蓋の体部片である。ロクロ成形。外面上部へラケズリ、下部に斜文。焼成は良好。色調は灰色。胎土は細かい白色粒、小礫を含む。

## 5 まとめ

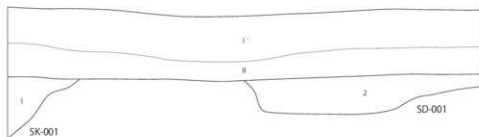
今回の調査で検出した遺構・遺物は少ない。これまでの調査では、遺跡の北側では古墳時代後期の集落跡の存在が示唆されてきた。しかし、今回の調査では古墳時代の堅穴住居跡等は検出されず、微高地上でも遺跡の東端には集落が広がっていないことが判明した。また、富吉遺跡Ⅲで見つかっている同時期の遺構・遺物を検出し、中世の遺構の広がりを確認できた。

これまでの富吉遺跡では、点的な調査を中心に多くの調査を実施し、遺構の広がりを確認してきた。し



c. 120m

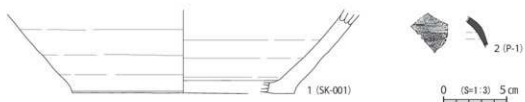
—•C



- I' 基本土層に同じ  
II 黒褐色土 黄褐色土粒・ブロック少量含む。  
I 黒褐色土 黄褐色土粒・ブロック少量含む。  
2 黒褐色土 黄褐色土粒少量含む。

第 11 図 確認トレンチ配置図及び断面図





第12図 出土遺物実測図

かし、どの地点でも遺物の出土量は少ない。今回の調査でも遺物は少なく、土師器については摩耗しており、時期が不明なものがほとんどである。そのため、富吉遺跡の時期については未だ明らかになっていない部分が多い。今後の調査に期待したい。



1. 調査前風景 (南→)



2. 1T (東→)



3. 2T (南→)



4. 3T (東→)



5. 4T (西→)



6. 1T東壁A-A' (西→)



7. SD-001 完掘 (南→)



8. SK-002・006・011完掘 (北西→)

図版2 天神台遺跡Ⅷ



1. SK-004完掘 (南→)



2. SK-008完掘 (南東→)



3. 調査区全景 (東→)



4. 調査区全景 (南東→)



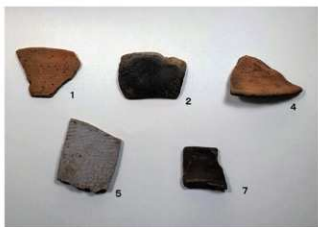
5. 作業風景 (南東→)



6. 重機による埋戻し状況 (西→)



7. 調査終了状況 (南東→)



8. 第7図



1. 調査前風景 (南東→)



2. 重機によるトレンチ掘削状況 (北東→)



3. 3 T (南西→)



4. 4 T (南西→)



5. 5 T (北東→)



6. 6 T (北西→)



7. 調査終了 (南東→)



8. 第12図1

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	れいわごねんど ちばけん きみつしないいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	令和5年度 千葉県一 君津市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	天神台遺跡Ⅴ 富吉遺跡Ⅶ							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	曾我真実子							
編集機関	君津市教育委員会							
所在地	〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号							
発行年月日	西暦 2024年（令和6年）3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地 系北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
天神台遺跡Ⅴ	千葉県君津市上字 天神台694番3	12225	KT036	35° 18' 36"	139° 57' 26"	[確認] 2023年4月12日～ 2023年4月13日	44.5 /496 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設
						[本調査] 2023年4月17日～ 2023年5月2日		
富吉遺跡Ⅶ	千葉県君津市貞元 字猪ノ尻201番	12225	KT051	35° 19' 20"	139° 54' 22"	[確認] 2023年5月8日～ 2023年5月26日	55 /551.8 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
天神台遺跡Ⅴ	集落跡	古墳時代・ 奈良・平安 時代	古墳時代溝跡1条・土坑7基・ビット 4基、奈良・平安時代溝跡1条・土坑 2基・ビット60基		古墳時代土師器・ 須恵器、奈良・平 安時代土師器	これまでの調査成果と同時期の 遺構・遺物を検出した。		
富吉遺跡Ⅶ	包蔵地	古墳時代・ 中世	古墳時代溝跡1条・ビット1基、中世 土坑4基・ビット8基		古墳時代土師器・ 須恵器、中世陶器	集落跡の広がりには確認できな かった。富吉遺跡Ⅴと同時期の 遺構・遺物を検出した。		

---

令和6年3月15日 印刷  
令和6年3月25日 発行

令和5年度  
—千葉県—  
君津市内遺跡発掘調査報告書  
天神台遺跡Ⅵ  
富吉遺跡Ⅵ

発行 君津市教育委員会  
千葉県君津市久保2丁目13番1号  
印刷 有限会社アドメイクス  
千葉県木更津市清見台東2-19-16

---